

□ 要請番号 (JL04825A03)



国名	職種コード 職種	年齢制限	活動形態	区分	派遣期間	派遣隊次
ブータン	C103 野菜栽培		個別	新規	2年	・2025/3・2026/1・2026/2

【配属機関概要】

1) 受入省庁名 (日本語)

農業畜産省

2) 配属機関名 (日本語)

バジヨ農業研究開発センター

3) 任地 (ウォンディ・ポダン県バジヨ) JICA事務所の所在地 (ティンブー市)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (バスで約 3.0 時間)

4) 配属機関の規模・事業内容

配属先は、農業振興調査研究組織として全国に4ヶ所設けられているセンターの一つで、1965年に農業試験場として設立された。ウォンディ・ポダン県を中心とする中西部地域5県を対象に技術支援を行っている。同センターには、畑作、園芸、エンジニアリング、技術支援サービスを担当する部署があり、年間予算は約1億円。これまでJICA技術協力プロジェクト「中西部地域園芸農業振興プロジェクト」(2016年～2021年)などを実施していた。過去にJICA海外協力隊の派遣実績がある

【要請概要】

1) 要請理由・背景

配属先では、国内の食糧安全保障の一環として、各地域で生産可能な野菜の研究に取り組んでいる。将来的な普及を見据え、キャベツ、ブロッコリー、とうがらしをはじめとする23種類の野菜を、センター内に設置されたビニールハウスで栽培し、実証実験を行っている。この取り組みでは、栽培技術の改良と新規作物・品種の導入を進め、持続可能な食糧供給体制の確立を目指している。しかし、現状では専門的な技術や知識を有する人材が不足しており、新たな作物や品種の導入が難しい状況である。このような背景から、より高度な専門知識と技術を持つJICA海外協力隊のサポートを強く求めており、今回の支援要請に至った。

2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

配属先同僚と協力しながら、以下の活動を行う

- 同僚と共にセンター内にあるビニールハウスで野菜の実証試験を行う。
- センター内で栽培した野菜の評価や、栽培技術の改善に向けた助言や提案を行う。
- 同僚や農家に対し、野菜の栽培技術に関する指導及び勉強会を実施する。
- 可能な範囲で、野菜栽培研究に関する論文作成のサポートを行う。

3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

ビニールハウス10棟、鍬、鋤、シャベルなどの一般的な農機具、冷蔵庫など

4) 配属先同僚及び活動対象者

【配属先同僚】

センター長(50代、男性)
カウンターパート(50代、女性)
同僚スタッフ 4名(20,30代、男性)

【活動対象者】
上記、同僚および地域農家約250世帯

5) 活動使用言語

英語

6) 生活使用言語

その他

7) 選考指定言語

英語(レベル:C)

【資格条件等】

[免許]： ()

[性別]： () 備考：

[学歴]： (大卒) 農学系 備考：同僚の学歴水準に合わせるため

[経験]： (実務経験) 5年以上 備考：指導的な活動となるため

任地での乗物利用の必要性

不要

【地域概況】

[気候]： (温暖冬季少雨気候) 気温： (10～30℃位) [電気]： (安定)

[通信]： (インターネット可 電話可) [水道]： (安定)

【特記事項】

- ・任地での生活使用言語は英語もしくはゾンカ語。ゾンカ語については、現地訓練期間に語学研修を行う予定。
- ・2025年春募集では、同センターから食用作物・稲作栽培の要請がなされている。